

死闘の延長、7人攻撃

流れる連係、効果絶大



男子決勝 沖縄一富山 相手守備との1対1を素早くかわし、力強いシュートを放つ伊禮颯雅
=27日、埼玉県さいたま市のサイデン化学アリーナ（嘉陽拓也撮影）

GK高西颯斗（神奈川）の友利彬彦監督がうなずく。好セーブで突入した23-23 GKをコートプレーヤーに変え、数的有利を生む作戦だ。「6人でうまくいかなかったし、7人攻撃は練習からミスもなかったから」。颯雅（同）が「7人攻撃で淡々と振り返る伊禮だが、効果は絶大だった。」

ハイライト

照屋拓実（同）の個人技 富山の目と脳が動く一方で、足が止まった瞬間、中央に上がった伊禮のパワフルなロングシュートがゴールネットを揺らす。次の7人攻撃は村山倅輝（同）が起點となる。裕寿（同）のダブルポストで富山を出し抜いた。右サイドで伊禮が守備の間に飛び込み得点した。

事をさせない、シューターを内側に抜かせないという約束事の徹底も勝因となった。タメ押し28点目を決めた親泊は「延長は結構がちがった。3年間で一番苦しい試合だったけど、最高に楽しかった」とうれし涙に声を震わせた。オリンピック有望選手に選ばれた伊禮は「仲間を信じ、最後まで全員諦めないう心が結果につながり、たとチームの団結力を強調した。」（嘉陽拓也）

拓実 サイドで光った「照屋コンビ」 慶剛



○…タレン抜の中で、勝のは右サイドと左サイドの「照屋コンビ」逆転に成功に慶剛がシュ逆サイドの拓得点。小学時

会